

平成28年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量〔図－1〕

近年の全体取引量は、平成19年まで減少傾向が続き、一時的に増加へ転じた後、平成22年から再び減少傾向が続きましたが、今期は久しぶりに増加に転じ、前年同期（約16.9万本）より約3.8万本増の約20.7万本となり、前年同期比約122%となりました。

用途別では、一般植木は前年同期比約97%、生垣用樹は約99%とわずかに減少しましたが、株・玉物は約149%と大きく増加し、全体の取引量を押し上げました。

2 用途別の取引動向〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約3.9万本で、前年同期（4.0万本）より約0.1万本減少しました。過去10年間ほど、6万本前後を維持してきましたが、一昨年同期に4万本台に減少し、今期もわずかに減少しました。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類やツバキ、キンモクセイ、カシ類などで、前年に半減したキンモクセイは増加に転じましたが、大きな減少傾向が続くカシ類は今期も大きく減少しました。仕立物で大きなウェイトを占めるイヌマキ、イヌツゲに大きな変動はありませんでした。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約11.8万本で、前年同期（7.9万本）より約3.9万本増加しました。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類とイヌツゲで大半を占めますが、近年著しい減少傾向が続いていたサツキが倍増し、全体量を押し上げました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約4.9万本で、前年同期（5.0万本）より約0.1万本減少しました。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で生垣用樹の約92%を占めています。イヌマキは近年は2万本前後の安定した取引が続いていますが、サザンカは減少傾向が継続しており、5年間で半減しています。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよくみられる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引上位10品目を見ると、近年大きな減少傾向が続いていたサツキが今期は倍増し、他を大きく引き離して1位を保ち、わずかながら増加したツツジ類、イヌマキがこれに続き、減少したサザンカ、イヌツゲは順位を落としました。

追加樹種では、前年同期に大きく減少したシマトネリコが大きく増加して取引上位10品目に加わり、オタフクナンテンは順位を下げました。

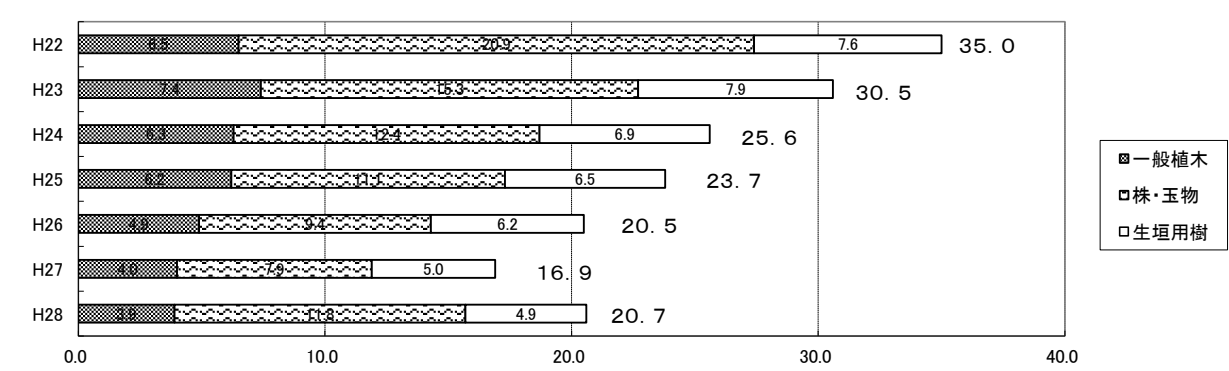
調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

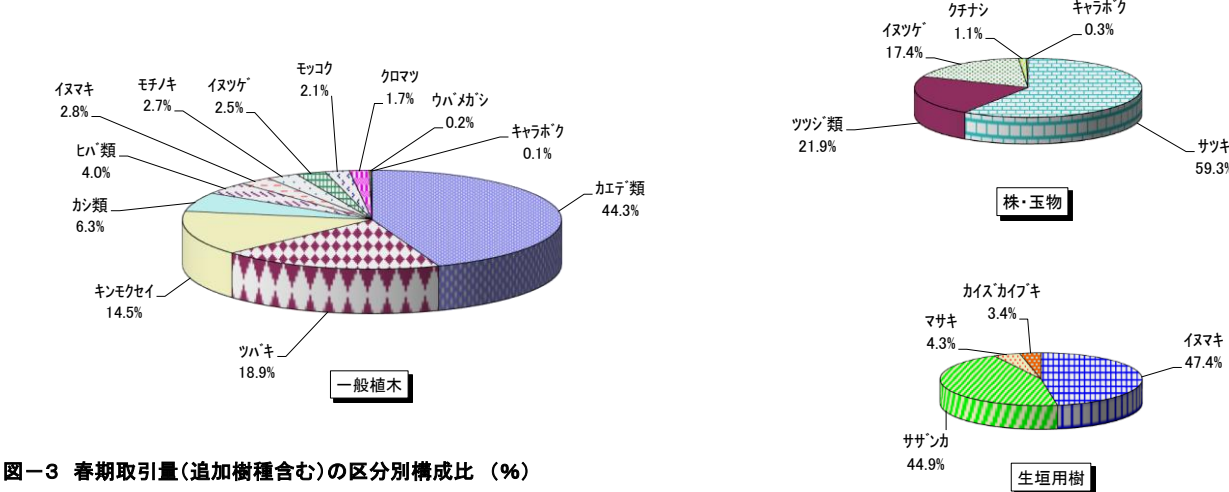
矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市齊藤町）

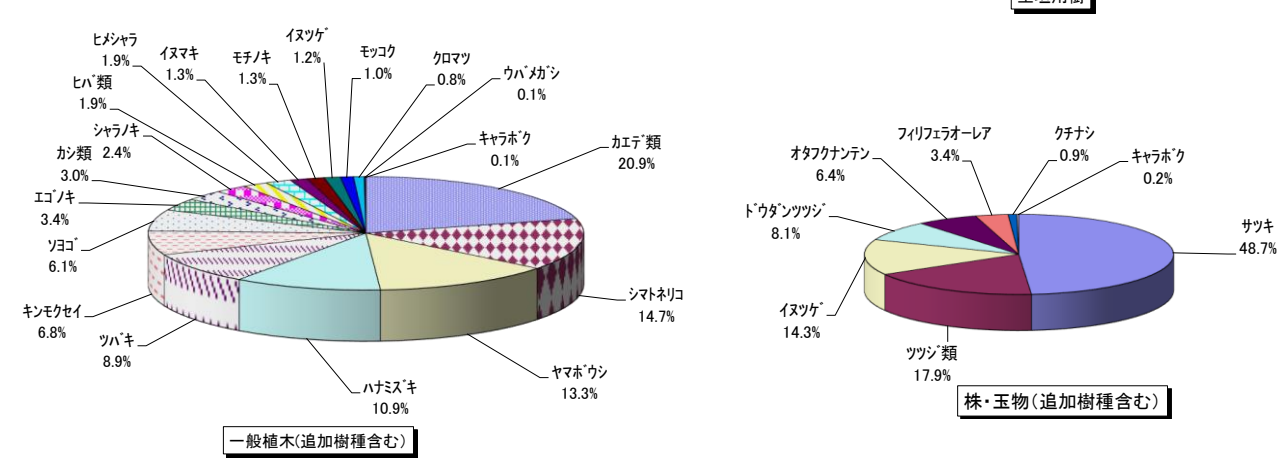
図一 春期取引量の推移（単位：万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（％）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（％）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成26年			平成27年			平成28年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	↘	サツキ	株	↘	サツキ	株	↑
2	イヌマキ	生	...	サザンカ	生	...	ツツジ類	株	...
3	サザンカ	生	...	ツツジ類	株	↗	イヌマキ	生	...
4	イヌツゲ	株	↘	イヌツゲ	株	...	サザンカ	生	...
5	カエデ類	一	↘	イヌマキ	生	↘	イヌツゲ	株	...
6	オタフクナンテン	株	↑	カエデ類	一	...	カエデ類	一	...
7	ツツジ類	株	↗	オタフクナンテン	株	↘	シマトネリコ	一	↑
8	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...	ドウダンツツジ	株	...
9	ドウダンツツジ	株	↓	ハナミズキ	一	...	ヤマボウシ	一	...
10	ハナミズキ	一	...	ヤマボウシ	一	↑	オタフクナンテン	株	↘

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗: +20%以上40%未満 ↘: -20%以上40%未満
↑: +40%以上 ↓: -40%以上 -: データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹